

教育委員会

コラム Vol.7

教育長室の窓から

愛情、忍耐、責任

「愛情」「忍耐」「責任」これは、本町にある肝付町立高山准看護学校の校訓です。

高山准看護学校は、昭和43年4月1日に鹿児島県教育委員会より設置の認可を受けて、4月16日に開校式と入学生22名による第1回入学式を行いました。その当時は、旧高山商業高校を仮教室としていたそうです。その後の変遷を経て、現在の校舎には、平成16年8月に移りました。

ご存知かと思いますが、高山准看護学校は、保健師助産師看護師法に規定する准看護師になるために必要な知識及び技術を習得し、地域の医療福祉に貢献しうる人材を育てる学校であり、愛情、忍耐、責任は、校訓となっています。また、公立学校同様に教育目標がありますが、特徴的なのは次の点です。

- 疾病を持った人々と家族の考え方や人格を尊重し、温か味ある、心に届く看護の実践を目指すための基礎的能力を養う。
- 准看護師としての社会的責務を自覚し、自ら研鑽する態度を養う。

現在、56期生8名、57期生10名が、准看護師を目指して学んでいます。

ただ、生徒数が定員に満たない状況が続き、57期生が最後の卒業生になります。これまでに育った多くの人材は、大隅地区を中心に地域医療に貢献しています。高山准看護学校の長い歴史に思いを馳せていただければ幸いです。

さて、10月3日には、57期生10名の戴灯式があり、臨地実習に向け、看護職への責任の重さを一人一人が自覚しました。いよいよ最後の卒業生が准看護師への一歩を踏み出しました。

恥ずかしながら、私は第19代校長、最後の校長になります。



教育長の

ちょっといい話

先生に…

高山准看護学校の臨地実習の際に取り上げられる柴田トヨさん※1の詩集「くじけないで」の中から、「先生に」という詩を紹介します。

先生に

わたしを おばあちゃんと呼ばないで
「今日は何曜日？ 9+9は幾つ？」
そんなバカな質問もしないでほしい
「柴田さん西城八十※2の詩は好きですか？小泉内閣をどう思いますか？」
こんな質問ならうれしいわ



実習に参加した56期生からは、「高齢者の人権を守り、尊重する必要を感じた。」「高齢者の今の姿から、これまで経験されてきた過去を敬うことを忘れてはならない。」などの感想が聞かれました。

※1 詩人 ※2 詩人・作詞者・仏文学者